

「日々の理科」(第 1615 号) 2018 (H30), 12, 10

「高崎の夜景とオリオン座」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

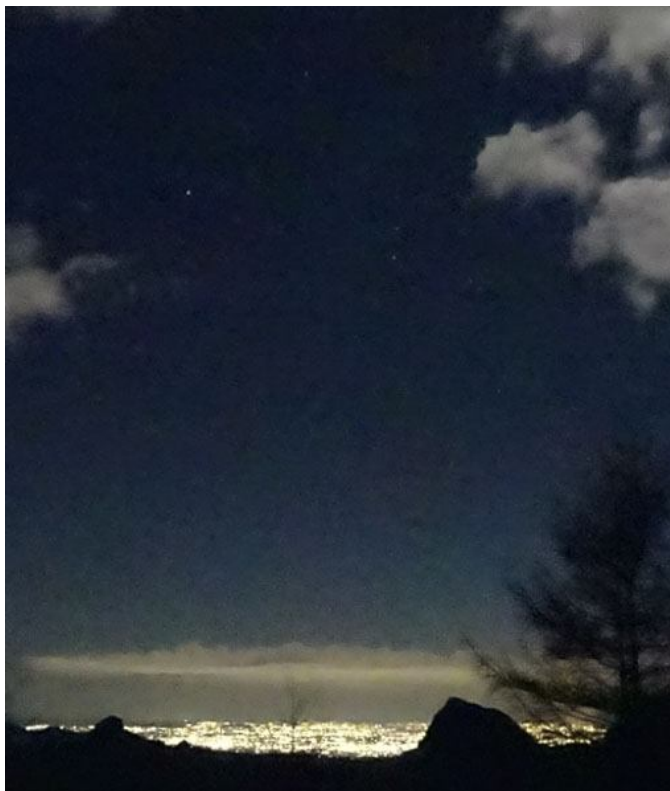
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

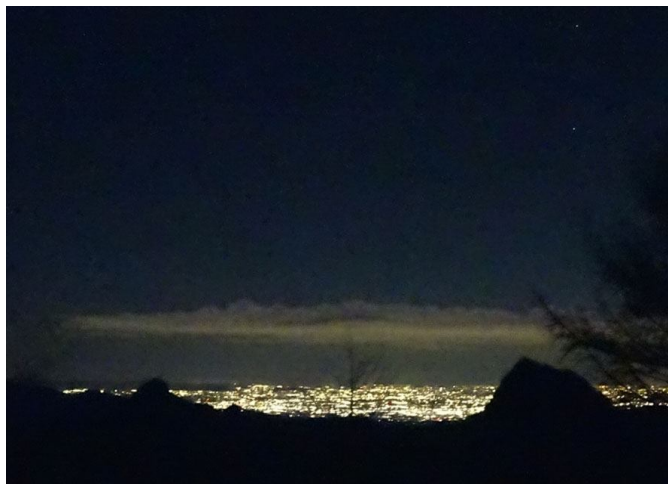
金曜日の晩に、仕事が終わってから東京を車で出て、北軽井沢の山荘に直行することがある。藤岡インターか前橋インターで高速をおりて、あとは、国道や県道を経由して夜道を走る。



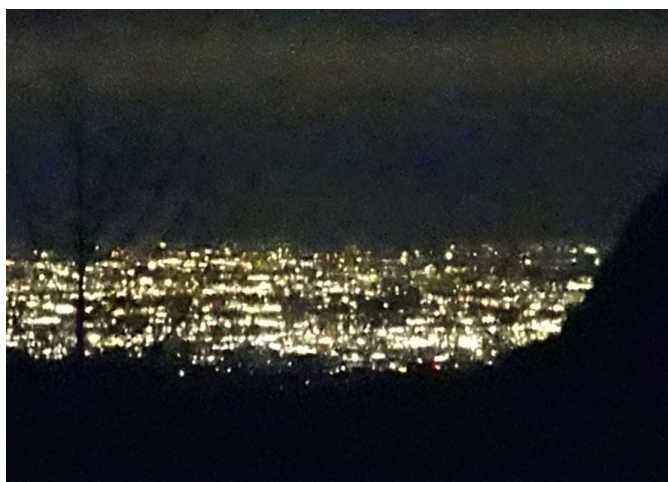
群馬県道 54 号線で、二度上峠まで上りつめると、前方に浅間山、後方に夜景が見える。



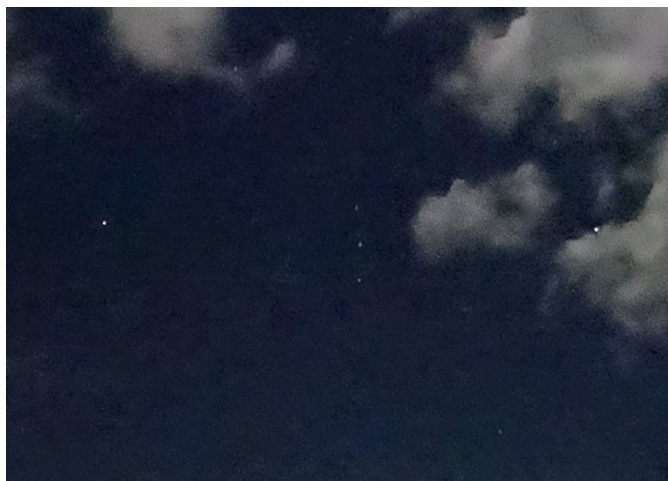
さっき通ってきた、高崎市街地の夜景だ。思わず車を停めて見とれてしまう。初冬の今の時期、その夜景の上に、オリオンが昇ってくるのが見えることがある。



この写真にもオリオン座のリゲル（白い一等星）が写っているのだが、よくわからないだろう。肉眼でははっきりと見える。



それにしても、星の明るさに比べて、街の灯火は何と明るいことか。北軽井沢は、夜空の暗い土地で有名だが、東の空はあまりよくない。それはこの高崎市の「光害」が原因である。



この日は雲（積雲）が残っていたが、星はよく見えた。私は、峠のガードレールにコンパクトカメラ（デジカメ）を載せて、露出 2 秒でオリオン座を撮影してみた。ちゃんと写っていた。左側のベテルギウスはもっと赤っぽいのだが、それが表現できないのが残念。